

農繁期 レポート

令和7年 4-5月号

ニールファーム

オーナー	株式会社G-7新流
産地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保証量	玄米252kg
形態品種	無農薬栽培コシヒカリ



生産者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

オーナーの皆様、ご契約有難うございます。連日、お米の単価に関するニュースが報道されない日はないほど、メディアで取り上げられております。その反面、生産者側の立場に立った報道が少ないように感じております。

さて、今年の田植えは4月25日スタートで、6月3日に終了しましたストーブを4台用意し、加温して成長を促進しました。オーナー様の圃場の状態は、寒さの影響も多少。オーナー様の圃場に関しては、計画通り5月15日から23日の間で終了しておりますので、ご安心ください。全体的には計画より1週間ほどの遅れとなりましたが、その主な原因は雨不足によって圃場に水が入らない状況があったためです。加えて、寒さの影響で育苗ハウス内の苗の生育が遅れ、石油あると思われますが、今のところ問題なく生育が進んでおります。

これからは、畔・河川・水路の草刈り、そして毎朝晩の圃場巡回が日課となってまいります。

4月～5月の作業内容

1.育苗

幼少期を集約的に管理して、均一に生育させることが目的です。育苗の初期である発芽から苗立ちの期間の管理が、その後の生育を大きく左右するため、最も重要な場面であるといえます。



育苗ハウスの作業の様子

2.荒起こし

トラクターで硬くなった土を砕き、空気や水を入れて柔らかくする作業です。土をほぐすことで根張りがよくなり、微生物の働きも活発になります。また、次の代かき作業がしやすくなり、田植えの準備がスムーズに進みます



トラクターでの荒おこし

3.代かき

田起こし後の田んぼに水を張り、土を細かく砕いて均す作業です。苗がムラなく育ち、植え付けもしやすくなります。水漏れ防止や肥料・有機物の混和、雑草の抑制にも効果があります。昔は牛や馬に馬鍬を引かせており、古民家に牛舎跡が残ることもあります。



トラクターでの代かき

4.田植え

代掻き作業から数日後に行う作業です。昔は一族総出で行っていましたが、田植え機が発明され作業負担が軽減されました。田植え機にはガイドがあり、まっすぐきれいに植えることができます。稲の良好な生育をイメージしながら作業します。



田植え機を使った田植え